

1. 活動報告（事務局 記）

—11月04日（金）3日急遽脱穀を手配し、4日終了しました。もし5日でしたら雨の為に又延期になるところでした。籾は14カマスで玄米に直すと4俵強位になろうかと思われ、猪被害があったものの今までの最高の収穫ではないでしょうか。

参加8名の方ご苦労様でした。水分19%で乾燥し臼挽きを5日午後行いました。

—11月05日（土）活動は降雨のためエコアップは中止しましたが、懇談の後ハゼかけ竹の整理や次回活動【里山の暮し】で使用する足踏脱穀機の修理等をして早めに切り上げました。参加者は9名でした。雨の中の活動お疲れさまでした。

—11月13日（日）ビオトープ全般にイノシシによる被害が大きく、また雑草も長いままで見苦しいので急遽連絡の取れる方で午前中と午後各1時間半で全般の草刈と草原ゾーンの川中の溝揚げやエコアップを行いました。

会長、原田副会長、吉富、藤村、渡辺正、金子、綿部各会員及び事務局と市内から西原会員にも参加戴きました。14日は4時からこの草の後処理を行いました。

※又もち米の臼挽きは終わり約260kg（4俵と20kg）でした。

—11月15日（火）うべ探検倶楽部主催の二俣瀬散策で一行10名とスタッフ3名がビオトープを見学されました。秋も終りに近く生き物も少なくなってきましたが、天気にも恵まれて、西原会員の案内で楽しく散策されました。

2. 今後の予定（事務局 記）

◎ 見学者

◎行事

—11月26日（第四土）親子自然観察会「里山の暮し」（手作業での稲こぎ・縄ない・竹細工）

—12月04日（日）エコアップ・維持管理活動

—12月17日（土）収穫祭（餅つき）

3. 来訪者の声

先日は大変お世話になりました。中々この時期に水辺を眺める事が無かったのですが、生き物や景色にふれて参加者の方々も懐かしさと新鮮さを味わえたようです。また暖かい時期にも訪れさせていただきたいです。ありがとうございました。

うべ探検倶楽部 山本

4. 会員の声 「足踏み式脱穀機」 (中本 亜矢子 記)

11月5日(土)この日は朝から雨。しかし、参集日なので東屋に出かけた。簡単なミーティングのあと、参加していたみんなで、26日の観察会で使用するという足踏み式脱穀機の補修を始めた。朽ちていた足踏み板を、丈夫な板に取り替えた。山型の針金(これは太いピアノ線らしい)部分が浮いていたのを、叩いて板に打ち込ませた。板が硬いので、まっすぐに打つには技術がいるらしい。手を入れたことで脱穀機は見違えるほど蘇り、なんだか嬉しそうに見えるから不思議だ。こんなふうに、古い農機具を手入れしながら受け継いでいくことっていいなあ。



脱穀機の補修作業の様子



足踏み式脱穀機の看板

私は日常のなかで、こんなレトロな代物にお目にかかったことがないので、この足踏み式脱穀機に大変興味を持った。脱穀機に付いている看板も気になった。旧漢字が使用されており、右から左に字が表記されている。いったいいつの時代のものなのだろう。

私は、まず、日本の農機具の歴史を調べてみた。日本で足踏み式脱穀機が普及したのは、大正時代らしい。大正元年に自転車のスポークに当たったもみが飛び散ったことから考案されたもので、これまでの脱穀作業を大きく変えるきっかけになったそう。千歯こきの数倍の能率を上げることが出来、足で踏み板を上下させると山型の針金のついたドラムが回転し、そこへ稲を載せ、手で押さえつけると、もみが落ちる仕組みだ。大正末期ごろから石油発動機が輸入され、国産でも石油発動機が開発されるようになり、昭和25年ごろからは、小型の動力脱穀機に主役を移していったことから、このタイプの脱穀機は、昭和30年代ごろまで使われたらしい。

次に、私は看板の文字表記に着目してみた。少なくともこの脱穀機は、右から左に文字を表記していた時代につくられたものである。

「元来日本語は漢文に倣い、文字を上から下へ、また行を右から左へと進めて表記を行っていた。太平洋戦争以前は、右横書きが優勢であったが、戦後、GHQによるアメリカ教育施設団報告書中のローマ字採用勧告や監事の廃止運動などの社会運動により、西欧の記法に倣う左横書きが革新的、右横書きは保守的、というイメージは決定的なものとなり、右横書きは衰退の一途をたどることとなったらしい。ちなみに新聞の見出しの横書きは『読売報知新聞』(現在の『読売新聞』)が1946年(昭和21年)1月1日号から左横書きに切り替わったのを初の例として、1948年(昭和23年)までに『日本経済新聞』を除く全紙の見出しが切り替わっている。」(ウィキペディア フリー百科事典より引用)

最後に、看板に書いてあった会社名、奈良市今井町にあったらしい文明商会製作所をネットで検索してみたが、該当する会社は見つからなかった。ただ、会社や製品名は違うが、同じような看板の付いた足踏み式脱穀機の写真は、検索する中でいくつか見ることができた。

結局、この足踏み式脱穀機がいつごろ製造されたのかは特定できなかったが、おそらく太平洋戦争以前のものなのではないかなあと、私は推測する。全国の農家の倉庫にこんなレトロな足踏み式脱穀機が眠っているかと思うと、なんだかワクワクする。

5. 親子自然観察会 (11月26日の活動は次の会報に記載します。)

6. ビオトープ関連 (ビオトープのトンボたち) (管 哲郎 記)

(42) オオアオイトトンボ (アオイトトンボ科・アオイトトンボ属)

Lestes temporalis SELYS

北海道～九州地方に分布しますが、北海道や九州南部地方では少ないようで、図鑑により北海道には生息していないとされているものもあります。6月～12月まで見られる大型のイトトンボです。樹林に囲まれた薄暗いところを好み、池周りの半日陰の小枝や草の葉などに止まっています。人が近づいても遠くには逃げませんが、追いかけるとどんどん遠くへ逃げてゆきます。そっと近づいてゆけば簡単に捕獲できます。

交尾活動は午後から夕方にかけて行われ、池に生育した樹木の若い枝の樹皮に産卵するようです。同属のアオイトトンボなどはガマやショウブの葉や茎(柔らかい)に産卵しますが、なぜか本種は硬い樹皮の中に卵を産み付けます。池の近くに植えられたお札の原料になる‘コウゾ、ミツマタ’などに産卵され、大変な被害を受けたこともあるようで、お札を食べるトンボとして話題になったこともあったようです。



オオアオイトトンボの♂



オオアオイトトンボの♀



羽化するオオアオイトトンボ (♀)

連結するオオアオイトトンボ 上:♂ 下:♀ →



7. 会よりの連絡事項（事務局より）

1) 収穫祭の計画

12月17日(第三土曜日)に「ビオトープ収穫祭」を行います。親子自然観察会と地元子ども会が主体となって行った体験学習(田植え、稲刈り、ハゼかけ)の総まとめになります。当日は稲作に御協力を戴いたJA山口宇部農協の代表の方・宇部市長さん・須賀河内川の芦刈の手伝いを戴いた中国電力(株)宇部電力所さんをご招待いたしております。今後の予定です

① 260kgの玄米を精米 12月初旬

② 前準備(洗米・餅つき準備)12月16日(金)ふれあいセンターに9時集合願います。約3俵(約180kg)を餅つきに使用しますので前日の準備に参加をお願いいたします。残りの約80kgは会員の方に販売いたします。

2) 親子自然観察会の閉会式

収穫祭当日餅つき及び片づけがが終わって「23年度親子自然観察会」の閉会式をおこないます。

8. 編集後記

今年度前半は、ビオトープの活動に時には子連れでわりと参加できていたのですが、この9月から長男が幼稚園に通うようになり、親参加の園の行事と重なることが多く、ますます参加できなくなりました。現在長期育休中で始終家にいる私にとって、数少ないリラックスできる場であるビオトープに行けないことは、とてもストレスです。主人は幼稚園職員なので、園の行事と重なればもちろん子守を頼むこともできず。仕方がないことですが、主人が合間をみては、豆々しく唯一趣味のパチンコにいそいそと行っている姿をみると、自然と握りこぶしに力が…!!!（笑）ここ数カ月は、幼稚園は秋の行事が多かったからか。そのうち落ち着くのでしょうか?いずれにしても、主人とリラックスタイム取得のせめぎ合いをしながら、またビオトープの活動に参加させて頂きたいと思います。休みが多く、申し訳ありませんが、どうぞよろしくお願い致します。

（大野 靖子 記）